

シンガポールグローバルリーダー育成研修 実施報告

目的：英語での発信力、問題解決能力、プレゼンテーション能力、リーダーシップに必要な資質の育成

日程：2024年7月25日（木）～7月31日（水）5泊7日

参加者：生徒約20名（1年生、2年生）、引率教員2名、添乗員1名

研修の特長

- アジアの中で成長著しく、教育水準の高いシンガポールでの研修
- シンガポール国立大学（世界大学ランキングでアジアトップレベル）でのプログラム
- 少人数のグループワークやディスカッションを中心とした内容
- 現地学生とのキャンパスツアーや市内散策など豊富な人的交流
- 実際に海外で働く人から学ぶ機会（企業訪問やゲストスピーカーセッションなど）
- 名門ボーディングスクールの学生寮に滞在し、現地の学生生活を体験
- 「英語で学ぶ」プログラム、語学研修なし、観光要素少なめ
- 研修での学習効果を高める充実した事前学習と事後学習

※以下、写真の掲載は了承済。

第1日：7月25日（木）

集合予定時刻に参加者全員が関西国際空港に集合。添乗員や引率教員からの連絡事項、諸注意の後、保護者や本校教員に見送られ、出発。搭乗手続き、保安検査、出国審査を通過し、シンガポールへ。



定刻より約30分早く、シンガポール・チャンギ空港に到着し、マーライオンパークに寄ってから寮へ移動することになった。約15分の滞在であったが、シンガポール到着を実感したようであった。



滞在先の学生寮に到着後、現地スタッフより滞在中の説明を受けた。夕食後、各部屋へ移動し、翌日からのプログラムに備えた。中には学生寮内の施設を散策した者もいたようだ。

第2日：7月26日（金）

この日の朝食から寮の食堂を利用。添乗員から食堂の利用方法について説明を受け、各自で食事を取りに行く。食堂には日本や各国からの団体と現地の生徒が混在し、学校らしい雰囲気であった。



この日は Singapore Management University（シンガポール経営大学、以下SMU）のキャンパスツアーと市内散策のプログラム。生徒たちは各グループに分かれ、グループリーダー（現地学生）にSMUのキャンパスを案内してもらった後、市内散策（リトルインディア、アラブストリート等）へと出かけて行った。移動には公共交通機関を利用し、マリーナベイサンズ内の所定の場所へ集合。



集合後、マリーナバイサンズやガーデンズバイザベイを短時間散策し、学生寮へ戻った。
夕食後、この日の振り返りを実施し、学んだことの共有や翌日に向けての目標などを再確認した。



第3日：7月27日（土）

この日から3日間は本研修の中心となる National University of Singapore（シンガポール国立大学、以下 NUS）でのプログラムを実施。初めに、現地スタッフから NUS でのプログラム開始にあたって、心構えなどを話してもらった後、各グループにグループリーダー（現地学生）がつき、セッション開始。

この日は SDGs 特化型プログラムとして、教育とジェンダー平等を中心に講義やディスカッションが進められた。生徒たちは常に話す機会があり、頭脳をフル回転して対応していたようだ。

グループリーダーに声をかけ、一緒に昼食をとった生徒もおり、休憩時間でさえも学びの場に変えてしまう積極性が見られた。



午後からも午前のプログラムの続きが実施され、生徒たちはグループ内でのディスカッションの連続であった。グループ内で発言の多い生徒もいれば、なかなか発言の機会を得られない生徒もおり、苦戦している姿も見られたが、有意義な機会であることに違いはなかった。

学生寮に戻り、この日も夕食後に振り返りを行った。前日の振り返り内容や引率教員からのアドバイスを受け、意識面や行動面で変化が生まれているようであった。

第4日：7月28日（日）

研修の折り返し地点。この頃には学生寮での滞在にも慣れ、起床から朝食、出発までの流れが定着していた。この日も NUS でのプログラムを実施（内容はリーダーシップ特化型プログラム）。各グループには前日と異なるグループリーダーについてもらい、交流の機会を増やした。前日からの流れもあり、初めから積極的に発言する生徒が増えてきた。

午前のプログラムではリーダーのタイプについての講義や、ある条件下での意思決定に関するアクティビティを通して、リーダーシップについて学んだ。毎回の発表でも、当てられるのを待つだけでなく、積極的に挙手する姿が目立つようになってきた。昼食後は各グループでキャンパス内を散策した。



午後の講義はイノベーションと持続可能性に関する内容であり、生徒たちはイノベーションの具体例などについて考えた。最後の1時間で翌日のプレゼンテーションについての説明を受け、準備を始める。学生寮に戻り、夕食後にはシンガポール在住の本校卒業生によるゲストスピーカーセッションを実施。本来、研修のプログラムに組み込まれていない内容であったが、研修先に本校の卒業生が在住しているという幸運と卒業生のご厚意により実現したものである。他校の海外研修でも類を見ないプログラムとなった。



卒業生の方にはご自身の豊富な海外経験（留学や勤務など）を話していただくだけでなく、生徒たちに向けた熱いメッセージもいただき、非常に充実した時間を過ごすことができた。

第5日：7月29日（月）

この日はNUSでのプログラム最終日。配布された同じTシャツを着用し、参加した。最初にプレゼンテーションに関する簡単な講義があり、その後はプレゼン準備、発表へと続いた。

前々日に学んだSDGsについてのプレゼンテーション（グループ）と自分自身の将来についてのプレゼンテーション（個人）をそれぞれ英語で実施した。ポスターを用いた数分の発表であったが、学んだことを短時間で準備し、英語で発表する経験を積むことができた。



この日の最後にはゲストスピーカーセッションを実施し、現地で働く日本人の方に話をいただいた。主な内容は個人の経歴やイノベーションについてであり、前日の本校卒業生に続き、挫折したように見えても、そこからいかに取り組むかで人生は大きく変わるということを伝えていただいた。特に、ゲストスピーカーの方々が喜んで参加してくれている姿が印象的であり、「目が輝いている」というお褒めの言葉は、生徒たちのエネルギーや将来への希望に満ち溢れている姿を率直に表現した言葉であった。

この日が学生寮での最後の宿泊だったため、夕食後、翌日の出発に向けて、部屋の掃除や荷造り、チェックアウトなどについての指示があった。この日の振り返りは短時間に限定し、グループごとに行ったが、前日までの振り返りを生かし、生徒たちだけで進められているようだった。終了時間になっても、全グループで振り返りが続いており、時間が足りなかったようだが、きちんと取り組んでいた証でもあった。

第6日：7月30日（火）

現地での研修最終日。前日までと同じく、6時半起床で1日がスタートしたが、この日は深夜1時半頃まで起きておく必要があり、とても長い1日となった。最終日には大学でのプログラムはなく、企業訪問や市内散策を実施した。

学生寮出発前に現地スタッフより、この日訪れるマリーナバラッジ（貯水池と外界の境にある水門などの施設）について簡単な説明を受けた。マリーナバラッジはシンガポールの水資源について学べる場所ではあるが、実際には景色がよく、シンガポールの近代的な街並みを見渡すには最高の場所であった。



企業訪問では日系企業向けコワーキングスペースを訪れ、担当者よりコンセプトの説明や施設案内をしていただいた。新しい働き方の参考になるような場所であり、日系企業以外にも日本の地方自治体がオフィスを構えていた。

企業訪問後、グループリーダー（SMUの学生）と合流し、市内散策（チャイナタウン周辺）と昼食となった。お土産の購入やホーカーセンターでの昼食、シティーギャラリーの見学等に時間を充てた。シティーギャラリーでは、シンガポールの街の模型があり、都市計画や都市開発について学ぶことができた。



市内散策の全予定を終え、空港へ移動。チャンギ空港では、22時までJEWEL（空港隣接の商業施設）内の自由散策（各自夕食を含む）とした。日本にはない規模で空港都市としてのイノベーションを感じることができた。夜遅い時間でも混雑しており、人とお金の動きを目の当たりにした。

JEWELからターミナルに移動し、最後は空港内での自由時間となった。ここでは24時まで散策の時間があったが、24時間営業の大規模空港では時間に関係なく、利用者が多く、世界トップクラスの空港を体感することができた。

第7日：7月31日（水）

1時25分発のシンガポール航空便にて大阪へ向けて出発。定刻の8時50分頃に関西国際空港到着。着後、解散。研修終了後、参加生徒は事後課題や事後学習に取り組む予定である。